

第 1 学年
生活科

もりとなかよし（単元計画/全 35 時間）

平成 28 年10月 19 日(水) 第5校時
杉並区立西田小学校 第1学年 82名
授業者／（1 組）（2 組）（3 組）

単元目標

- ・身近な自然(落ち葉、木の実、枯れ枝など)と五感を使ってかかわり、季節の変化に気付くことができる。
- ・「にしたのもり」(学校及び学区)を探索しながら、生き物や植物などの自然とかかわり、友達や園児などの人との出会いを通して、自然や人とかかわることの楽しさがわかる。
- ・自然を使ったかざりや遊びを工夫し、友達や園児に「にしたのもり」の素晴らしさを知らせることができる。

評価規準（教科等）

- 身近な自然に関心をもって紹介しようとしている。
- 身近な自然を使ったかざりや遊びを工夫して楽しんでいる。
- 「にしたのもり」の自然で遊ぶ楽しさを、友達と伝え合おうとしている。

児童の実態

入学からこれまでの間、大きなトラブルもなく、全体として比較的落ち着いて学習や行動をすることができる児童である。また、低学年らしくどの学習に対しても、積極的に取り組もうとする意欲も高い。しかし、まだまだ自分の気持ちを整理することや、感じたことを自分の言葉でまとめ、相手にわかりやすく伝えることは難しい。また、学級によって、児童の実態や学力・興味・関心の方向性の違いが強くみられている。

そのため、本単元では、校外活動(秋探し)や森のお店屋さんなどの遊びや体験の機会を活用し、児童が学級の枠を超えて交流し、人との関わりを深められるような場を多く取り入れた。

単元観

本単元は、生活科の「あきとなかよし」を発展させたものである。身近な秋と触れ合うだけでなく、地域で守り継がれてきた豊かな自然とかかわったり、遊んだりすることで、自分たちの未来の生活をより豊かにしようとする態度を養う。そして、地域の宝である「にしたのもり」の自然を大切にしながら、楽しい遊びを考え、誰かと一緒に遊んだり、教えたりする。次世代に守り継いでいきたい自然の素晴らしさに気付き、かかわっていくことで、地域への親しみと愛着を深めることができる単元である。

本単元では、児童の学習を五感を使ったダイナミックなものとするために、NPO法人オイスカとの連携や都・区立公園の活用、近隣幼保子供園との交流が考えられる。その中で、「にしたのもり」で遊ぶ視点を豊かにし、体験的活動の充実を図りたい。自分たちの地域にある森で遊び、様々な場所やもの、人に出会いながら、地域への親しみと愛着を深めることで、大切な自然を守ろうとしたり、身近な人に伝えようとする態度を養うことができると考え、本単元を設定した。

評価規準（ESD）

学習過程	ESDで育てたい力	重視する能力と態度 [①ステップ1 ②ステップ2]
学びに火をつける ▼	進んで参加する態度	① 「積み木のシャワー」の体験をし、檜の感触やにおいを味わうことを通して、「にしたのもり」の自然に興味をもち、身近な自然の楽しさを見つけようすることができる。 ② ネイチャーゲームを使って、テントウムシの冒険の話を楽しみながら話すことができる。
	未来像を予想して計画を立てる力	① 「にしたのもり」で楽しく遊ぶ計画を立てることができる。 ② 冬に外で遊びたいことを想像することができる。
遊ぶ体験する ▼	多面的・総合的に考える力 進んで参加する態度	① 「にしたのもり」の遊びを様々な視点から、より楽しくするための工夫を考えることができる。 ② 風の力を上手に利用して、遊ぶ方法を考えることができる。 光と影を使った遊びを工夫し、楽しむことができる。 冬の自然を生かして、外で楽しく工夫して遊ぶことができる。
	つながりを尊重する態度	① 秋の「にしたのもり」にある、木や木の実・枯れ葉に触れ、身近な自然に親しみをもつことができる。 ② 冬の自然環境の特徴に触れ、自然に親しみをもつことができる。
まとめる ▼	他者と協力する態度	① 友達と協力して、友達が楽しめる遊びを考えたり、工夫することができる。
	つながりを尊重する態度	① 秋・冬と「にしたのもり」や自然で活動した経験を振り返り、身近な自然を大切にしようとする意識をもっている。
伝え合う	他者と協力する態度 コミュニケーションを行う力	① クラスの友達に、自分たちが作った森の遊びを、分かりやすく紹介することができる。 ② 「にしたのもり」のよさを形にして、未就学児に贈り物として届ける。
	つながりを尊重する態度	③ 身近にある自然が森と関わる人々の力があって成り立っていることに気付き、感謝の気持ちを書いて伝えることができる。

本時の授業デザイン

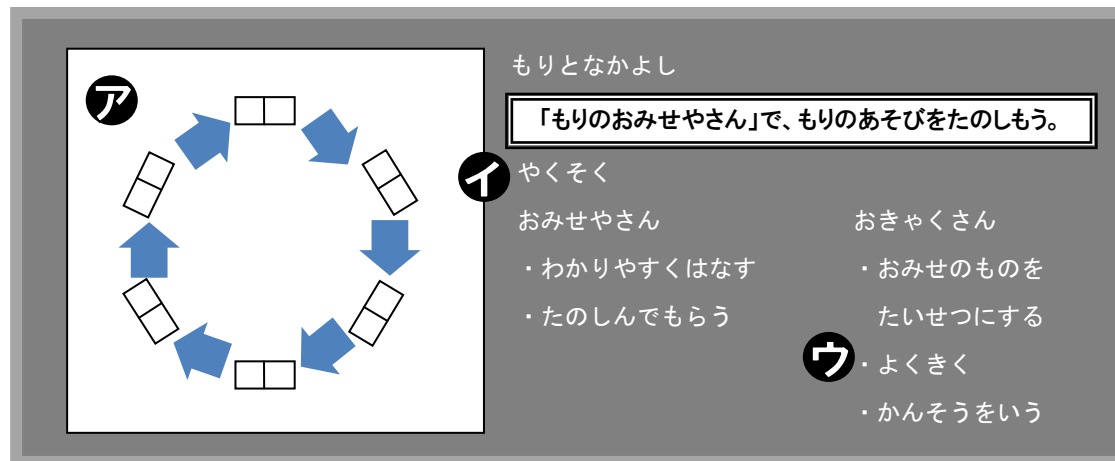
本時の目標

- ・ 【お店屋さん】森のお店屋さんを開き、友達に楽しい森の遊びを紹介する。
- ・ 【お客さん】森のお店屋さんで遊びを楽しみ、遊んだ感想を伝える。

評価

- 【お店屋さん】「森のお店屋さん」の遊びを、わかりやすく友達に伝えることができたか。
- 【お客さん】お店で楽しんだ感想を、相手に伝えることができたか。

板書計画 / 留意点



指導上の留意点

ア 立場を明確にする。

「お店屋さん」「お客さん」の立場で、すべきことを理解させる。

イ 「森のお店屋さん」の目的を明確にする。

自分一人が楽しむのではなく、友達に楽しい森の遊びを共有する意識を持たせる。

ウ 相手にわかりやすく伝える工夫をする。

お店の紹介や遊び方、また遊んでみた感想を友達にわかりやすく伝えさせる。

授業を見る視点

進んで参加する態度

それぞれの立場になりきり、楽しみながら活動に進んで参加しているか。

他者と協力する態度

友達と協力して活動を進めようとしているか。

コミュニケーションを行う力

相手にわかりやすく、具体的に説明や感想を伝えられているか。

① 導入

「もりのおみせ屋さん」で、もりのあそびをたのしもう。

T : 「森のお店屋さん」の続きをしましょう。

それぞれの立場での約束事を確認する。

T : お店屋さんは、どんなことに気をつけますか。

C : 遊び方をわかりやすく紹介する。

C : お客さんに楽しんでもらう。

T : お客さんは、どんなことに気をつけますか。

C : お店の物を大切にする。

C : 遊び方の紹介をよく聞く。

C : 楽しかったところやよかったところを伝える。

◇ お店ごとに考えた遊びを、友達にわかりやすく紹介する。

◇ 遊んだ感想を伝えてから、次のお店に移動する。

	お店の種類					
1組	ゲーム (実)	ゲーム (実)	ゲーム (実)	ゲーム (葉)	レストラン	アクセサリ
2組	ゲーム (実)	ゲーム (葉)	劇	レストラン	レストラン	アクセサリ
3組	ゲーム (実)	ゲーム (実)	ゲーム (葉)	劇	かみしばい	アクセサリ

③ 終末

今日の活動を振り返る。

T : 「森のお店屋さん」をやってみて、何かすごいな、すてきだなと思ったことはありますか。

C : どんぐりがいろんなものに変身していてすごかった。

C : ゲームが楽しかった。

T : 次の時間は、どんなことをしてみたいですか。

C : もっと遊びたい！

C : 作り方を教えてもらいたい。

